

犀川スキーバス事故 学内追悼集会 学長挨拶

今から37年前の1985年1月28日、学生22人、体育教員1人、バス乗務員2人、合計25人の尊い命が失われた犀川スキーバス事故が起きました。

今の時期は二十四節気の大寒にあたり、一年でもっとも寒い季節です。事故が発生した日の現地は一面雪に覆われて、ダム湖の水面が氷結するほどの寒さでした。そのような時期に起こった事故により失われた25人の尊い命を偲び、慰霊碑のある現地と学内において、追悼の祈りを捧げる会を毎年執り行っています。

成人になる前後の年に、大切に育てた我が子を突然失う苦しみは、何年たっても癒されるものではありません。ご遺族の悲しみは今も続きます。私たちは慰霊碑に書かれているように、「悲しみを二度とあらしめぬために」改めてご遺族の悲しみに深く思いを寄せて、この事故のことを忘れず、教訓を次世代に引き継いでいきます。

世界中での感染拡大が2年に亘り続いている新型コロナウイルス感染症により、多くの人の命が失われるとともに、私たちの生活には様々な困難が強いられています。大学においても、キャンパスに通って学びや活動をすることが制限され、遠隔授業の受講など学生たちにとって不自由で負担の多い生活状況が続いています。あらためて、命や健康の大切さを実感するとともに、ふつうに暮らすことができることがいかに幸せであるかを痛感させられています。

日本福祉大学は建学の精神に基づき、苦難を抱えている人たちを様々な分野から支える人を養成し輩出することをめざしています。その上では、37年前に起こったバス事故をはじめ今回のコロナ禍での経験を含めて、人のいのちの尊さ、大切さについて、学生をはじめ教職員すべてが理解、認識することが重要だと思います。あらためて、37年前の悲惨なバス事故のことを風化させないとともに、二度と繰り返さないように取り組んでいくことが本学の使命だと考えています。

37年前に犠牲となった学生たちを慰霊する気持ちをさまざまな方に共有していただいていることを、忘れてはいけないと思っています。事故が起こった現地に立てられている慰霊碑周辺の清掃や草むしりを本学卒業生や周辺にお住まいの方が、人知れず行ってくれています。また、本学のスキーバスを運行していた三重交通には、社をあげて慰霊に取り組んでいただいています。毎年の現地法要の際に、雪深い現地でご遺族が怪我をされないように、社員が前日から現地に赴き、雪を溶かし、道をつくる等、安全の確保に努めていただいています。

こうした多くの皆さまのお気持ちを大切にしつつ、今年もみなさんと一緒に犠牲になられた方々を追悼する思いを込めて合掌したいと思います。そして、入学式の頃には、亡くなられた22人の学生と体育教員1人の魂が宿った「友愛の桜」が美浜キャンパスにおいて綺麗な花を咲かせてくれることを願っています。

2022年1月28日

日本福祉大学学長 児玉 善郎